

実践例 「学校・学級経営の深化・充実」

「課題2 地域の伝統や文化を重視した開かれた学校・学級経営の創造」

I. 学校名 平取町立貫気別小学校

II. 学校の概要

1 平取町および学校の状況

平取町は日高地方の西端に位置し、人口5400人ほどの農業を主産業とする、豊かな自然とアイヌ文化の拠点の町として広く知られている。

貫気別小学校は、国道237号線沙流川沿いと沙流川支流の貫気別川、額平川沿いに位置し、豊かな自然に恵まれた中にある。夏は蒸し暑く、冬は厳しい寒さで盆地特有の気候である。地域の産業は、畑作、米作、酪農が中心であるが、特に、ビニールハウスでのトマト栽培が盛んで、町の主要産物として定着している。

2 平取町ふるさと教育の推進（平取町教育推進計画より）

平取町の未来を担う人材を育成するうえで、故郷に誇りを抱き、地域社会の一人として、まちづくりに積極的に関わりをもつことは大切なことであるため、郷土に生きる自覚を養う取り組みを推進します。（主な施策）

① 町の自然や文化、産業等の教育資源を活用した授業実践の推進
（総合的な学習の時間等の実践活動への支援）

② アイヌの歴史、文化に関する教育活動の支援充実

③ 社会科副読本の編集支援

④ 地域の施設や人材を積極的に活用し、地域の理解を深める教育活動及び体験活動の実施

⑤ まちづくりに関する教育活動の推進

3 貫気別小学校ふるさと教育の推進（主な活動）

① 学校農園の効果的な活用と地域に合った作物の栽培をおこなう。今年度は「カボチャ」の栽培、観察、収穫までをおこない、地域の方に招待状を送り、収穫祭を開催する。

② ビニールハウスでの栽培を工夫する。（昨年は、綿花、落花生、今年はゴーヤ等）

③ 地域のトマト農家、水田農家への訪問をおこなう。

④ アイヌ文化施策推進課とタイアップして、アイヌ文化学習に取り組む。

⑤ 地域の環境について課題を設け、調べ学習をおこなう。

⑥ 子ども教育委員会の活動を通して、平取町についての調べ学習や未来の平取について考える。

⑦ 平取養護学校との交流会を継続する。

4 アイヌ文化学習について

平取町では、アイヌについての正しい歴史、伝統、文化を学ぶことにより、ふるさとへの愛着や誇りを高め、豊かな人間性の育成を目指している。

特に、アイヌの歴史や文化については、アイヌ施策推進課が中心となり、小学校においてはアイヌ文化学習として、年間30時間程度の活動をおこなっている。本校の中学年は「アイヌの昔の子どもの遊び」のテーマで、年間を通して体験活動をおこなっている。

〔今年度の主な内容〕

カリプペカブ（輪差し）体験 イコクッタラ（イタドリ）の笛作り

博物館見学 鹿皮遊び かんじき体験 料理作り

シノッポク（弓）遊び 山菜採取 セイピラッカ（貝下駄）作り 等々

Ⅲ. 実践例

1 アイヌ文化学習（年間を通じた体験学習）



カリブヘカブ体験

長い棒で輪を受け取る遊びです。皆、盛り上がっていました。



イタドリの笛体験

裏山からイタドリを取り、カッターで笛を作り、音も鳴りました。



アイヌ語カード

絵の名前をアイヌ語で表示し、かるたをして遊びました。



シト作り体験

杵と臼で粉を作り、それを練って、お団子を作って食べました。



セイピラッカ作り

ホッキ貝に高温で穴を開け、ひもを通し、貝の下駄を作りました。足に挟んで歩きました。

アイヌ文化学習

中学年は体験型のものが多いですが、高学年は、アイヌの衣食住の課題を取り上げ、調べ学習とパソコンでプレゼンをする活動を目標にしています。

2 農園活動



農園活動の1年

今年度はカボチャの栽培をおこないました。5月に苗を植え、観察、雑草取りを続け、9月に収穫。その後、収穫したカボチャを料理し、お世話になっている地域の方々を呼んで収穫祭を開催しました。また、11月には、縦割り班でカボチャの歴史、カボチャの種類、病害虫の種類について調べ、それを模造紙等にまとめ、発表会をおこないました。

畑への堆肥入れ、耕す作業等は全て地域の方をお願いするなど、地域の協力なしにはできない活動となっています。

3 その他の活動



地域老人クラブとのふれあい教室

地域の老人クラブの方と昼食会の実施、ゲームや餅つきをした後、一緒にお雑煮を食べる「ふれあい教室」をおこなう等、地域と学校が連携を取りながら交流活動をおこなっています。

地域とのつながりは非常に強く、高学年の子が太鼓のたたき方を教わり、地域の祭典で太鼓の披露やよさこい踊りを発表しています。運動会、学習発表会には、地域の方が多数参加し、地域の学校として盛り上げてくれます。